

被災地支援の絆生かせ

笠岡でまちづくりシンポ

東日本大震災の被災地のため、多くの笠岡市民が支援に関わる中、その原動力をどのようにまちづくりに生かすかを考える「市民共創・協働まちづくりシンポジウム」(大空

と大地のカーニバル実行委主催)が17日、同市十一番町の市保健センターで開かれた。パネルディスカッションは、震災直後から被災地支援を展開したり、地域活動などに取

り組む団体の6人が出席。市民ら約200人を前に、笠岡のまちづくり、人づくりについて意見交換した。

「た」とし「その絆がまちづくりには必要」と強調。笠岡青年会議所の坂本亮平専務理事は「自分たちのまちが好きて、誇りに思える人を増やすことが地域の活力につながる」と持論を述べた。この日は、南三陸町で活動した市民らの報告や、国際医療ボランティア・AMD A(本部・岡山市)の菅波茂代表による基調講演もあった。(三宅信行)



まちづくりに必要な要素について述べるパネルディスカッション

希望プロジェクト

笠岡駅前
の商店主ら
で構成し、
宮城県南三
陸町を支援
する笠岡希